

有害プランクトン情報 (令和2年度 - No. 7)千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	10月 第1回	内湾 (8地点)	10/5	内房 (7地点)	10/5
		10月 第2回	内湾 (8地点)	10/19	内房 (7地点)	10/20

東京湾(内湾)**【有害プランクトンの出現状況】**

- 10/19に船橋沖でカレニア ミキモトイがみられました (0.1細胞/ml)。同種は千葉県環境研究センターからも10月2日(市川・幕張沖～内湾中央部：10細胞/ml)、10月15日(羽田沖、幕張沖：1細胞/ml)および10月27日(幕張沖：10細胞/ml程度)の調査時にみられたとの情報もありますので、今後の動向に注意が必要です。
- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属は確認されませんでした。
 - ※ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 % 以上) は確認されませんでした。
 - ※ シャットネラ属は1細胞/mL, シュードシャットネラ属は100細胞/mL, ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - ディノフィシス アキュミナータは10/5に内湾全域の地点でみられました (最高密度はアクアライン北部の26細胞/mL, その他の地点は0.1細胞/mL～3.5細胞/mL)。また、10/19にも内湾全域の地点でみられ、最高密度は船橋沖の1.2細胞/mLでした。
 - その他のディノフィシス属はディノフィシス ロツンダータが10/5にアクアライン北部および盤洲北部・南部の地点でみられました (アクアライン南部の0.4細胞/mL), また、10/19にも内湾全域の地点でみられ、最高密度はアクアライン南部の0.3細胞/mLでした。
 - 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

東京湾(内房)**【有害プランクトンの出現状況】**

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
 - ※ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 % 以上) は確認されませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - ディノフィシス アキュミナータは10/20に第2海ほ沖でみられ、密度は0.05細胞/mLでした。
 - その他のディノフィシス属は確認されませんでした。
 - 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたフランクtonの優占種

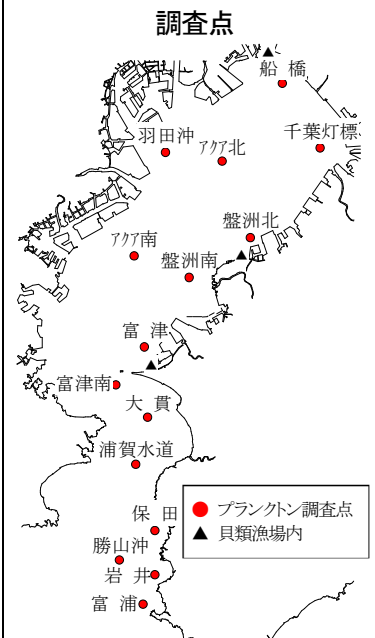
10/5	内湾・内房	珪藻	キートセロス, スケルトネマ属
10/19,20	内湾・内房	珪藻	キートセロス, スケルトネマ属



カレニア ミキモトイ
(10/19 船橋)



キートセロス属
(10/19 船橋)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp